

12月12日(月) 国語科特別講座

「書道に親しむ―書道科に学ぶ毛筆の極意」

去る12月12日(月)13時00分から、書道家 日比野 実先生をお迎えし、書道講座を開催しました。講座の定員35名は、早い段階で定員に達しました。

日比野先生が来られ、いよいよ講座の開始。まずは日比野先生の自己紹介と書道について、そして書道具の簡単な説明がありました。用具や半紙等の準備はOK。それぞれの書きたい手本を選んだ生徒の皆さんは、一生懸命半紙に練習書きを始めました。

1階一帯に墨の香が漂い、書道講座という雰囲気となりました。日比野先生から、はじめに基本的な打ち込みやはらい等の書き方を習ったのですが、実際に筆を持って書くととなると全く違ったようです。小学校以来久しぶりに筆を持ったという生徒たちは戸惑いがありましたが、日比野先生の手助けもあり一心不乱にお習字に取り組んでいました。普段の授業の時とは、また違う緊張感を持って取り組んでいました。練習の段階から日比野先生は生徒の皆さんの字を朱で添削してくださり、日比野先生にアドバイスを頂戴しようと長蛇の列ができていました。手直しや評価がすぐにももらえるからでしょうか、書き出しから比べると、何回も書いているうちにどんどん上達していくのが、側で見ている私たち国語科の教員にも伝わってきました。

講座が始まって1時間半ほど経過して、日比野先生は生徒たちにそろそろ仕上げに入ることを指示され、名前の入れ方を教えてもらい清書に取り組みました。2時間半が経過し、ほとんどの生徒が清書を仕上げ、片付けの時間となりました。あっという間に時間が過ぎたように感じられました。すべてを終えて筆や墨池を洗う、その時の生徒たちの顔には何かしらの達成感が溢れていました。さまざまな面で好意的に講座開催にご協力していただきました、書家日比野 実先生に感謝いたします。

